

# 子どもの育ちと環境

子どもは環境の中で育ちます。年齢に応じた環境構成になっているか。自発的に遊びが展開できる環境が常に整えられているか。一人ひとりの発達を促す環境は大きな課題です。今回は、遊びの環境を変化させたことで、夢中になって遊ぶ子どもたちの姿と育ちについてご紹介します。



## 4歳児クラスでみつけた夢中な姿 発達にあつた 保育環境

年齢に応じた玩具がマンネリ化し、課題となっていた4歳児クラス。今の子どもたちの発達や遊びの様子を基に、玩具を見直し、入れ替えを行いました。

〈同じ形で大小異なる積木〉  
想像力や考える力を高め、仲間遊びを楽しむために。

〈廃品や文具〉  
いろんな素材の性質を知り、廃材をいろいろ工夫する楽しさを味わうために。

〈手作りカルタ〉  
文字に親しみながら、皆でルールを作って、遊びを楽しむために。

新しい玩具の環境に気づき「新しいおもちゃ、入ってるよ」「これしたい！」と子どもたちの目は輝いていました。

積木で遊び始めたAちゃん。一人で黙々と積木を高く積み上げていました。それに興味を示し、じつと見ていたBちゃん。

Bちゃん「いれて」

Aちゃん「いいよ。今東京の町でエレベーターがあるところ、作ってるんや」

しばらく一緒に作る二人。

Aちゃん「ここは、穴あけとこ」

Bちゃん「電気はどこつける？」

二人で建物の中を覗き込む。

Aちゃん「電気はここ。人はどこに入れる？」

Bちゃん「ここにして、隠れられるようにしよう」

夢が膨らみ、会話が弾む二人。夢中で遊んでいます。

Aちゃん「先生、見て！すこいやろ！ここ穴あけたんだよ」

保育士「なんで、このような形にしたの？」

Aちゃん「エレベーターが通れるようにしたんや」

保育士「なるほど。よく考えたね。おもしろい！」

認めてもらえたことで、とても満足そう。この後、また二人で遊びの世界に入り、会話を膨らませていました。



積木遊び一つから想像を膨らませ、自分の体験や理想を形にしたり、友だちとストーリーを組み立てたりなど、子どもの表現力や発想は自由で豊かです。

また、友だちと協力し、一緒に楽しさを味わうなど、子どもたちは遊びを通して、相手を認め、仲間との関係を育み、その中で個々の成長も促がされています。

0歳児クラスでみつけた夢中な姿  
安心して遊べる  
保育環境



月齢や発達での個人差があり、歩く子や走り回る子がいるなど、動きがさまざまな0歳児クラス。発達するにつれ、探索活動が盛んになり、行動範囲が広がったことから、危険な面が増えてきました。

0歳児の部屋にある、家の形になっていて立。体を自由に動かせるようになったことから、自分でよじ登り、立ち上がるよう

になりました。怪我につながることも予測され、私たちは「危ないから降りようね」と声かけしていましたが、まだ小さい子どもたちには『なぜいけないのか、登るところではない』という理解ができず、お構いなしに登っていました。

何かいい方法がないかと試行錯誤し、思いついたのが、窓にカーテンをつけ、カウンターにはチャックを取り付けることでした。

その次の日からは、登ることは少なくなり、指先を使ってチャックの開け閉めを楽しんだり、カーテンをめくって、友だちや保育士としゃべりたいなあを楽しくむようになりました。また、よじ登りをしたいという気持ちも尊重し、階段の昇り降りや、よじ登りできる丸太登り、三角マットなどの運動遊びも充実させました。

0歳児の子ども一人ひとりの発達に合わせて環境を整えていくことで、好奇心は強いものになり、探索活動も広がってきました。また、危険な環境も工夫ひとつで安全で楽しい環境となり、より楽しい遊び場となりました。

子どもにふさわしい環境を整えたことで、子ども自らが積極的に環境に働きかけ「自ら考え表現する力」や「人とかわる力」が育ってきました。これこそが、幼児期の子どもに必要な力だと思えます。今後、子どもは環境との相互作用を通して成長・発達していくことを念頭におき、さまざまな経験を積んでいけるよう、保育を行いました。



水道横にある「もったいないばあさん」。水をださばないか、いつも見えています。



「そろえて脱がないと」と子ども同士で声かけ合っています。



トイレの後のシャツ入れ。実際の写真で表示。

みんなの広場  
目で見て楽しく学ぶ保育環境  
遊びの環境だけでなく、トイレの環境にもひと工夫！



流し忘れが、少なくなりました。



ペーパー1回での使用は約30cm。



四角くたたれば、きれいに拭きとれるよ。



トイレの順番を守りましょう。